

●ユニバーサル上映で地域を変える映画館

ユニバーサルデザインという観点から、シニアの固定客をつかんでいるところもあります。その1つが3年前にオープンした映画館「シネマ・チュプキ・タバタ」（東京都北区）でしょう。誰でも楽しめるユニバーサルシアターです。

運営母体は、ボランティア団体のシティ・ライツ。そもそもはチャップリンが盲目の花売り娘に恋をする映画『街の灯』を視覚障害者に観てもらいたいということから始まった活動なので「シティ・ライツ」と命名したそうです。

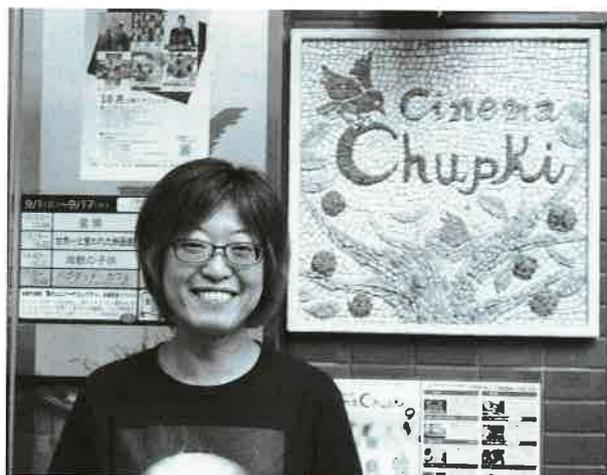
目標だった自前の映画館をつくる目途がたったとき、せっかくだらなくなら、誰でも楽しめるユニバーサルデザインにしようときまざまな機能を取り入れたそうです。

例えば、聴覚障害者には振動を感じられるスピーカーを用意したり、字幕をつけたりしています。

視覚障害者には、画面をイメージできるようにイヤフォンで音声ガイドを聞けるようにしています。子連れでも気兼ねなく映画を観られるように防音室でガラス越しに映画をみる親子観賞室も用意しました。上映する映画は昔の名作、ドキュメンタリー、アニメ、封切館で評判がよかった作品などです。作品によっては、大勢のシニアがやってくるそうです。

「日本の映画にも字幕が入っているので見やすいという意見をよくいただきます。とくに、ドキュメンタリー映画などは、ナレーション以外は、一般人の発言であり聞き取りにくいところがあるので、シニアにも好評です」と話すシネマ・チュプキ・タバタ代表の平塚千穂子さん。

また、映画館を設立したことにより、障害のある人が電車に乗って多く訪れるようになると、街の人々が、障害のある人に声をかけたり、道案内をしたり自然にサポートする行動をみられるようになったといいます。駅から映画館へ来る途中に



「誰もが楽しめる映画館をつくりたかった」と平塚千穂子さん(シネマ・チュプキ・タバタ)



ユニバーサルシアター「シネマ・チュプキ・タバタ」

ある信号機も街の人が声をあげ、音響式信号機に変わったとのこと。席数はたった20席ですが、ユニバーサルデザインの観点から考えると、新しい価値が生まれてくるようです。

紹介したほかにも、ゲームセンター、カラオケボックス、競馬など、さまざまなアミューズメント業界がシニアマーケットを開拓しようとしています。典型的なのは、無料体験会やスクールの開催でしょう。シニア割引も盛んです。例えば、中央競馬では、シニアに無料の席を用意しています。カラオケボックスでは、サラリーマンや学生が少ないアイドルタイムにシニア向け割引料金を設定しサービスを提供しています。シニア向けのサービスを導入することで、シニアの顧客は確実に増えているようです。

SUN

Specialists for Upcoming Needs

2019
秋
No.26

第26号



■巻頭言

日本介護福祉経営人材教育協会東海支部長
医療法人借行会理事長

川原 弘久

【特集】

第4回

全国介護福祉総合フェスティバル in さいたま

渋沢栄一に学ぶ

介護福祉経営の未来

—— 今、急がれる経営基盤の確立と人材育成

井口健一郎 / 小平達夫

【連載】

他業界の動向

第9回 アミューズメント業界

株式会社芝浦エデン / 株式会社コンチェルト / CINEMA Chupki TABATA